白山の信仰

白山は、富士山や立山と並ぶ日本三霊山の一つです。白山に降る雪は山頂に一年を通して残ることが多いため、「白山」という名前が付けられました。その純白な山頂は京都からも見えるほど遠くからも確認でき、歴史上多くの参拝者を惹きつけてきました。

717年、泰澄大師（682-767）という仏教僧が初めて白山に登りました。その後の何世紀にもわたり、巡礼者や山岳修行者たちは山頂に至る複数の道を開きました。その一部は現在の白山登山道の一部として使われています。

白山と 3,000 匹の蛇

伝説によれば、仏教僧の泰澄大師が白山に到着したとき、聖なる山には 3000 匹のヘビが這い回っていたと言われています。泰澄大師は、その邪悪なヘビを制圧し、周囲の村を救うことを決意しました。彼の霊力によって蛇を捕え、山の三つの場所に封じ込めることができました。これらの場所は「蛇塚」（じゃづか）、「刈込池」（かりこみいけ）、そして永遠に凍りついた火口湖「千蛇ヶ池」（せんじょうがいけ）です。これらの場所は、現在でも訪れることができます。